

# 会津テラス計画、2025 年後半の状況

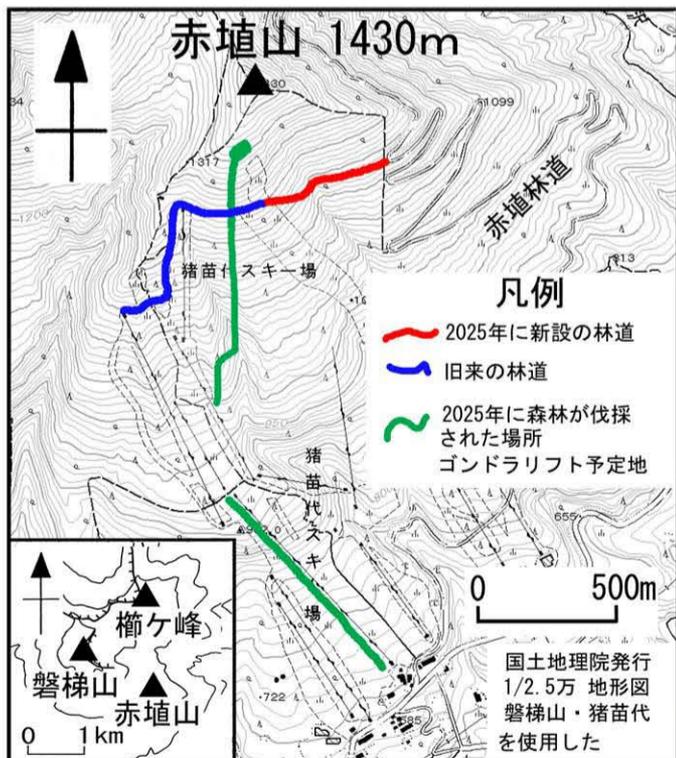
磐梯連峰「赤埴山」の開発計画「会津テラス計画」については、そくほう 793 号 (2022.12.01) から随時報告してきた。直近では、825 号 (2025.11.01) で 2025 年前半の状況を報告した。その後、工事は株式会社 DMCaizu の「計画図」に沿って着々と進んでいる。今回は、2025 年後半の状況を報告する。

工事の状況を「地図」と「写真 ABC」で説明する。地図と写真の「色の区分は共通」である。写真 A は、「工事の全体像」を、赤埴山の南南西方向から見たものである。

地図の赤線は、2025 年に開設された林道である (写真 B、撮影位置は写真 A 参照)。5 月、この場所は笹原であった (825 号の写真 B)。8 月 24 日に赤埴林道を通ると、赤線の林道が建設途中であった。工事は、赤埴林道との接続部分から始まり、西に向かって進み、林道全体の約 1/3 が出来ていた。10 月 25 日には旧来の林道 (地図の青線) まで達し、路面には碎石が敷き詰められていた。林道は幅員が約 4 m、最大勾配が約 12 度であった。道路脇には伐採された樹木が放置されていた。なお、建設残土は大型トラックで麓へ搬出された。

青線の林道は、1981 年にリフト新設工事で作られた。現状でも通行可能である (リフトは廃墟となった)。793 号 (2022.12.01) の「あばら骨状の工事」の際には、青線の林道の下 (南) 面に「いろは坂状の林道」も作られ、青線の林道と結ばれていた。さらに、青線の林道の南西端では、改修工事が行われていた。なお、あばら骨状の工事後に、いろは坂状の林道も埋め戻され、青線の林道に麓からのアクセスはできなくなった。ところが、9 月 15 日にはあばら骨状工事斜面を、重機が青線の林道まで登った形跡が明瞭に見られた。

地図の緑線は、2025 年 6 月～8 月に樹木が伐採されたところである (写真 C、撮影位置は写真 A 参照)。上下 2 区画に分かれている。この伐採域は、ゴンドラリフト「会津スカイケーブル」予定地と重なる。なお、上下 2 区画の間は「猪苗代スキー場のゲレンデ」で樹木はない。10 月 10 日の現地調査では、伐採木が現場に大量に放置されていた。伐採木は、上の工事区では大半がブナであり、下の工事区は人工林のマツやカラマツである (825 号写真 D 参



照)。

このように、会津テラス計画の工事は DMCaizu の計画図に沿って進んでいる。2026 年は、山頂のレストハウスとゴンドラリフトの建設が推測される。

懸念を書く。工事では、大型トラックでの資材の搬入が考えられる。赤線の林道は、斜面を削り、出た土砂で作られている。また、道路自体の傾斜も最大で約 12 度ある。このような脆弱な道を、大型トラックが資材を満載し頻繁に通行しても支障がないのであろうか。

また、赤線の林道の法面 (むき出し) を観察すると、斜面形成の経緯がわかる。斜面を作る土砂は、継続的に堆積した訳ではなく、短期間の崩落・堆積で出来ている場所が多い。また、1888 年噴火で出来た噴石落下孔に大量の腐葉土が流れ込んで窪地を埋めている。このような準安定状態の斜面を切り崩して、崩落は生じないのであろうか。この中でも特に崩壊が危惧される場所がある。それは、山頂付近から崩落してきたアグルチネート塊が、大量に分布する場所である。表土は全くない。崩壊する危険がある。

最後に、2024 年 3 月に地域情報誌「政経東北」からの取材があり、私の意見が掲載された。2025 年に記事がネット公開されたので、ご覧いただきたい。検索 keyword 「猪苗代スキー場『観光施設計画』の光と影」。

2026 年の状況も随時報告する。

(2026.01.13 福島支部 千葉茂樹)



— そくほう No.829 —

2026 年 3 月 1 日発行 (毎月 1 回 1 日発行)

編集 地学団体研究会全国運営委員会事務局

〒171-0022 東京都豊島区南池袋 4-16-6 古峯ビル 402

Email: chidanken@tokyo.email.ne.jp

郵便振替 00160 - 2 - 144318 地学団体研究会

発行 地学団体研究会

TEL: 03 - 3983 - 3378

FAX: 03 - 3983 - 7525

https://www.chidanken.jp